

令和 6 年度予算と主な取組について

1 市立千歳市民病院経営強化プランの目標

市立千歳市民病院経営強化プラン（以下「経営強化プラン」という。）では、更なる経営健全化に向けた取組を進めるとともに、地域の基幹病院として、持続可能な医療提供体制を確保し、安全で質の高い医療を提供するため、以下の事項について、実施計画を定めています。

また、本プランでは、経営の改善・強化のための数値目標や、医療機能や医療の質、連携の強化等に係る数値目標を設けるとともに、令和 9 年度までの収支計画を盛り込んでいます。

〈経営強化プランにおける 6 つの事項〉

- ① 役割・機能の最適化と連携の強化
- ② 医師・看護師等の確保と働き方改革
- ③ 経営形態の見直し
- ④ 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組
- ⑤ 施設・設備の最適化
- ⑥ 経営の効率化等

〈数値目標〉

主要な経営指標及び医療機能等指標について、次のとおり数値目標を設定します。

区 分	令和 3 年度 (実績)	令和 4 年度 (実績)	令和 5 年度 (計画)	令和 6 年度 (計画)	令和 7 年度 (計画)	令和 8 年度 (計画)	令和 9 年度 (計画)
経常収支比率	107.8%	99.7%	98.3%	99.0%	99.1%	99.6%	101.2%
医業収支比率	90.4%	85.9%	92.0%	93.8%	93.8%	94.2%	96.0%
修正医業収支比率	83.0%	78.8%	85.6%	87.4%	87.5%	87.9%	89.7%
病床利用率	65.1%	63.0%	79.6%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
1 日平均 患者数	入院	123.6 人	119.7 人	151.2 人	152.0 人	152.0 人	152.0 人
	外来	597.6 人	572.8 人	633.6 人	630.4 人	627.2 人	621.0 人
職員給与費対修正医業収益比率	65.5%	67.7%	59.1%	58.4%	58.6%	58.5%	57.9%
材料費対修正医業収益比率	22.6%	23.7%	24.0%	24.0%	24.0%	24.0%	24.0%
患者 1 人 1 日当たり診療収入	入院	66,147 円	68,105 円	67,994 円	69,014 円	70,049 円	71,100 円
	外来	11,924 円	12,594 円	12,635 円	12,825 円	13,017 円	13,410 円
常勤医師数	35 人	37 人	39 人	40 人	41 人	41 人	41 人
紹介率	58.6%	61.2%	55.0%	57.0%	59.0%	61.0%	62.0%
逆紹介率	32.1%	34.2%	37.0%	39.0%	40.0%	41.0%	42.0%

2 令和6年度予算について

(1) 収支について

区分	項目	令和6年度予算 (千円)	令和6年度計画 (千円)	増減
収入	経常収益	7,627,032	7,292,289	334,743
	医業収益	6,878,107	6,583,724	294,383
	うち入院収益	4,023,600	3,828,897	194,703
	うち外来収益	2,065,395	1,964,626	100,769
	うち一般会計負担金	465,880	451,451	14,429
	医業外収益	748,925	708,565	40,360
支出	経常費用	7,783,566	7,364,242	419,324
	医業費用	7,425,147	7,020,078	405,069
	うち職員給与費	3,808,547	3,580,488	228,059
	うち材料費	1,607,197	1,470,317	136,880
	うち経費	1,470,521	1,433,876	36,645
	医業外費用	358,419	344,164	14,255
経常損益		△156,534	△71,953	△84,581

令和6年度予算の経常損益は、計画より8,458万1千円の減となる、1億5,653万4千円の損失を計上しており、令和3年度決算では黒字となったものの、令和5年度に引き続き赤字予算の編成となりました。

赤字予算となった大きな要因としましては、医師や看護師など職員の増員に加え、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う手当の増加などによるものです。

収入・支出別に主な項目を見ますと、収入においては、医業収益のうち入院収益で40億2,360万円、外来収益で20億6,539万5千円、医業外収益では7億4,892万5千円を見込み、経常収益は76億2,703万2千円、計画より3億3,474万3千円の増を見込んでいます。

計画より増となった主な要因としては、患者1人1日当たり診療収入の上昇による医業収益の増によるものです。

また、支出においては、医業費用のうち職員給与費で38億854万7千円、材料費で16億719万7千円、経費で14億7,052万1千円、医業外費用では3億5,841万9千円を見込み、経常費用は77億8,356万6千円、計画より4億1,932万4千円の増を見込んでいます。

計画より増となった主な要因としては、医師や看護師など職員の増員に加え、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う手当の増加などによる職員給与費の増のほか、抗がん剤など高額な薬品使用量の増加など材料費の増などを見込んだものなどによるものです。

このように、計画と比較して単年度損益は悪化していますが、深刻な医師不足が課題となっ

ている中において、医師をはじめとした医療従事者の人員体制の拡充を図ることで、救急・高度医療の推進を可能とし、入院・外来ともに患者1人当たりの診療単価の上昇に繋がられていることは、中期的な経営の観点からは好材料であると考えています。

引き続き、「経営強化プラン」に掲げた取組を着実に進め、地域の基幹病院として必要な役割を果たし、健全で安定した経営基盤の確立を図っていきます。

(2) 主要な経営指標及び医療機能等指標について

項目	令和6年度 予算	令和6年度 計画	増減
経営指標			
経常収支比率 (%)	98.0	99.0	△1.0
医業収支比率 (%)	92.6	93.8	△1.2
修正医業収支比率 (%)	86.4	87.4	△1.0
病床利用率 (%)	79.7	80.0	△0.3
1日平均患者数(入院)(人)	151.4	152.0	△0.6
1日平均患者数(外来)(人)	619.4	630.4	△11.0
職員給与費対修正医業収益比率 (%)	59.4	58.4	1.0
材料費対修正医業収益比率 (%)	25.1	24.0	1.1
患者1人1日当たり診療収入(入院)(円)	72,810	69,014	3,796
患者1人1日当たり診療収入(外来)(円)	13,722	12,825	897
医療機能等指標			
常勤医師数(人)	36	40	△4
紹介率 (%)	57.0	57.0	0.0
逆紹介率 (%)	39.0	39.0	0.0

経営の効率化・安定化に向け計画年度ごとに設定している主要な経営指標及び医療機能等指標では、「患者1人1日当たり診療収入(入院・外来)」、「紹介率」、「逆紹介率」の4項目において、いずれも計画の範囲内となっていますが、その他の9項目においては、いずれも計画を下回っています。

計画を下回った主な要因として、「経常収支比率」、「医業収支比率」及び「修正医業収支比率」については、計画と比べ、入院及び外来収益の増加により経常収益及び医業収益が増となったものの、職員給与費や材料費の増加により経常費用及び医業費用がそれを上回る額の増となったことによるものです。

「病床利用率」及び「1日平均患者数(入院)」については、これまでの患者動向や今後の診療体制を踏まえた入院患者数の減、「1日平均患者数(外来)」については、他の医療機関への逆紹介数の増などによる外来患者数の減によるものです。

また、「職員給与費対修正医業収益比率」については、修正医業収益が計画より2億7,995万4千円の増となるものの、医師や看護師など職員の増員に加え、会計年度任用職員の勤勉手当支給に伴う手当の増加などにより、職員給与費が計画より2億2,805万9千円の増となることによるものです。

「材料費対修正医業収益比率」についても、外来化学療法等に係る高額な抗がん剤の使用量の増加など材料費の増により、計画に比べ医業収益に対する材料費の割合が増加したことによるものです。

「常勤医師数」については、36名となり、計画の40名には至っておりませんが、非常勤嘱託医5名も合わせ、診療体制の維持を図っています。

(3) 令和6年度の主な取組

「① 役割・機能の最適化と連携の強化」

内科系の2次救急と外科系の1次・2次救急は、継続して実施するとともに、循環器科、小児科は引き続き、年間を通して2次救急に対応するよう救急医療体制の維持を図ります。

〈令和5年度 救急外来患者及び救急入院患者数実績（全体）〉

区 分	令和5年4月～令和5年12月 累 計 (前年同月比)	令和4年度 実 績	令和3年度 実 績
救急外来患者数	2,927人(△1人)	3,778人	3,804人
救急入院患者数	1,127人(+54人)	1,379人	1,431人

〈令和6年度 救急開設予定日数〉

区 分		平 日 (243日)	土日祝日等 (122日)	合 計	1月当たりの 平均開設日数
内 科 系	2 次 救 急	243日	122日	365日	30.4日
循 環 器 科	2 次 救 急	243日	122日	365日	30.4日
外 科 系	1 次 救 急	64日	13日	77日	6.4日
	2 次 救 急	128日	73日	201日	16.8日
脳 神 経 外 科	2 次 救 急	89日	54日	143日	11.9日
小 児 科	2 次 救 急	243日	122日	365日	30.4日

「② 医師・看護師等の確保と働き方改革」

診療体制の充実を図るため、医師数の維持及び定着に取り組むとともに、増員に向けて大学医局への派遣要請活動や医師専門人材紹介会社（成果報酬型）の活用等を積極的に行います。

なお、市民病院の正職員については、医師 36 名（+ 1 名）、看護師 199 名（+ 4 名）、技術員 52 名（+ 1 名）、事務員 34 名（± 0 名）の 321 名体制とします。

〈臨床研修医の確保〉

基幹型臨床研修病院として、医育大学の初期臨床研修医を受け入れます。

- ・ 初期臨床研修医 5 名を受入（1 年目 3 名、2 年目 2 名）

■ 診療科別医師数の推移〔各年度 4 月 1 日現在〕

（単位：人）

診療科	令和 6 年度	令和 5 年度	令和 4 年度	令和 3 年度	令和 2 年度	令和元年度
内科	8	7	8	6	5	5
循環器科	4	3	4	4	5	4
消化器科	5	4	4	4	3	3
小児科	4	4	4	4	4	3
外科	4	4	4	4	5	5
脳神経外科	2	2	2	2	2	2
整形外科	3	4	3	3	2	3
産婦人科	3	3	4	3	3	3
耳鼻咽喉科	1	1	1	1	1	1
眼科	2	2	2	2	2	2
皮膚科	2	2	2	2	2	2
泌尿器科	1	1	2	2	2	2
麻酔科	2	2	2	2	2	2
合計	41	39	42	39	38	37

※非常勤嘱託医 5 名を含む

（内科：1 名、消化器科：1 名、小児科：1 名、脳神経外科：1 名、産婦人科：1 名）

「⑤ 施設・設備の最適化」

医療機器等の整備には、医療技術の進歩や医療ニーズの高度化・多様化に対応するため、毎年1億円～2億円程度の費用を要しています。

医療機器の購入にあたっては、基幹病院としての役割などを踏まえ、緊急性や重要性、安全性などを考慮し、計画的に整備します。

■医療機器等整備事業費 145,000千円（25品目）

〔対前年度比 △273,000千円（うちMR I更新△308,000千円）〕

【主な購入予定機器】

診療科名	名称	区分	金額
内科	超音波診断装置	【更新】	5,313千円
消化器科	大腸ビデオスコープ等	【追加・更新】	10,000千円
小児科	自動血球計数CRP測定装置	【更新】	5,264千円
麻酔科	全身麻酔装置（2台）※	【更新】	14,190千円
麻酔科	手術用患者監視装置※	【更新】	16,500千円
放射線科	診断用X線装置	【更新】	19,250千円
臨床検査科	多項目自動血球分析装置	【更新】	11,550千円
臨床工学科	大動脈内バルーンポンプ※	【更新】	21,780千円
臨床工学科	セントラルモニタ	【更新】	7,464千円
4階西病棟	コンパクト浴槽	【更新】	5,335千円
手術室	電動油圧手術台（2台）	【更新】	10,197千円

※再編関連訓練移転等交付金充当事業（3品目）

事業費：52,470千円 交付金：35,000千円（充当率66.7%）